

低炭素で持続可能な地域づくりをめざし、森林資源をエネルギーとして、市内に循環させる取り組みを推進しています。取り組みや参加する自治会の活動をご紹介します。

問 市民環境課（氷上庁舎内） ☎ 82-1290

森林資源が循環する地域

国内の森林は、電気や灯油に依存した生活スタイルや、森林整備の担い手不足などで、手入れが十分ではありません。丹波市でも、森林の荒廃が進行しており、平成26年8月の丹波市豪雨災害で発生した、山の崩落、土砂や流木の大きな要因になったとも考えられています。

平成27年9月、NPO法人の呼びかけで、自治会・地域の有志団体などの市民参加型で森林整備を行う「丹波市木の駅プロジェクト（以下、木の駅）」が始まりました。木の駅は、参加者が伐採した木を集積場のストックヤードに持ち込むと、6,300円／tで買い取るという仕組みです。

薪ストーブ・薪ボイラーの燃料として市内で販売されています。森林資源を市内で循環させ、エネルギーの地産地消、持続可能な地域づくり、里山の保全をめざします。

また、木の駅を利用して、森づくりをしようと、山に入る機会を増やすきっかけになっています。

自治会などの森林整備活動は年々増え、累積で179tの木材が出荷されています。

循環の仕組みをつくる

丹波市木の駅実行委員会とNP
O法人丹波グリーンパートナーが
協働して、循環の仕組みをつくら
せています。

木の駅実行委員会は参加者全員で組織されており、木材の出荷や新規参加者の講習、森林登録を行

います。丹波グリーンパートナーは、集まった木材を買い取り、薪に加工して、市民やハウス農家へ販売しています。

■丹波市木の駅実行委員会の役割

②入門講習会…木の駅への参加
森林作業から出荷までの説明と安全に出荷するための技能、知識を習得するための講習会

の登録

ナーの役割



NPO 法人丹波グリーンパートナーは、木の駅で出荷された木材の活用を担う機関で薪加工や薪販売などに力をいれています。里山を抱える地域の活動をサポートしていきますので、ご相談下さい。

活動は、ホームページ・フェイスブック
で公開しています。

問NPO 法人丹波グリーンパートナー事務局 ☎ 080-4821-3941



フェイスブック



ホームページ



チェーンソー特別教育のようす

木の駅プロジェクト
シンポジウム開催

木の駅プロジェクトの活動報告や、実行委員会に参加する自治会などの活動発表、グループディスカッションを行います。

■とき / 平成 30 年 2 月 25 日 (日) 午後 1 時 30 分～
■ところ / 氷上住民センター 大会議室
■内容 / 各自治会活動発表・グループディスカッションほか

①木材の買取…6, 300円／t
 (現金3, 300円、たんば共通
 商品券3, 000円分)
 ②薪の加工・販売
 ③チェーンソー特別教育…チェー
 ンソーの基本的な知識をはじめ、
 立木伐採の安全技術を学ぶ講習会
 ④森林活用 of コンサルティング…
 里山の活用や整備等の活動に対す
 るサポート

森の資源を活用する

市では、薪ストーブや薪ボイラ
 ーの導入を推奨し、設置補助を行

森の資源を活用する

市では、薪ストーブや薪ボイラの導入を推奨し、設置補助を行

っています。詳細は、広報11月号に掲載しています。

この2つは、灯油などの化石燃料を使用せず、環境に優しいのが特徴です。近年、火独特の暖かみが注目され、人気を集めています。

市内で薪を購入すると、エネルギー（燃料）の市内循環が活性化します。さらに、これまで国外に流出していた石油などの燃料費が市内に留まり、循環します。

森の保全や薪使用など、仕組みへの関わり方は様々です。低炭素社会の実現に向けた持続可能な地域づくりに参加してみませんか。



今年のシンポジウムは、昨年のシンポジウムのように

森林資源を楽しく活用

みんなで森や地域を守る

北岡本自治会では、自分たちの地域は自身で守ろうと、若い世代を中心に森林の活用と保全に取り組んでいます。きっかけは、丹波市豪雨災害の被害拡大の一因が、森林の手入れ不足だと言われていると知ったことです。

間伐などの森林整備だけでなく、アウトドア講習会・ハイキング・グルメイベントなど楽しい企画をしています。活動は年齢・性別関係なく、それぞれの個性が発揮でき、山に関心をもつきっかけになっています。資金は木の駅プロジェクトを活用して捻出しており、非常に助かっています。

森は、少し手を入れることで、人の集まる場所になり、災害に強くなります。他の地域でも木の駅プロジェクトを活用して、森林整

北岡本自治会長 黒田拓治さん

備に取り組んで欲しいですね。目標は子どもたちが遊びに行きたくなる森づくりです。みんなで楽しみながら、後世につながる森づくりが、生命を守り、にぎわいにつながることを肝に銘じて頑張ります。

